

10周年 ポーランド映画祭 2021

今年で10回目となるポーランド映画祭。世界的な巨匠クシシュトフ・ケシロフスキ監督やアンジェイ・ワイダ監督の代表作から昨年各国の映画祭で話題となった新鋭ピョトル・ドマレフスキ監督の新作まで、バラエティに富むラインナップ。ぜひポーランド映画祭にお越しください。

クシシュトフ・ケシロフスキ 監督生誕80年記念



© ポーランド共和国外務省

クシシュトフ・ケシロフスキ Krzysztof Kieślowski

1941年、ワルシャワ生まれ。名門ウッチ映画大学で学び、66年に初の短編映画を手がける。以後ドキュメンタリーを中心に製作、79年の『アマチュア』でモスクワ国際映画祭金賞を受賞し国際的に注目される。大作『デカログ』(89-90)を経て発表した『ふたりのベロニカ』(91)と『トリコロール三部作』(93-94)によってカンヌ、ヴェネツィア、ベルリンの三大映画祭の各賞を制覇、その後の活躍が期待されるも96年に54歳で逝去。

ふたりのベロニカ 4Kデジタルリマスター版 Podwójne życie Weroniki

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1991年/フランス語、ポーランド語/98分/カラー



© 1991 SIDERAL PRODUCTIONS S.A.

ポーランドとフランス。ふたつの国に生きる、同じ容姿、才能を持ったふたりのベロニカ(イレヌス・ジャコブ)を巡る数奇な運命の物語。ケシロフスキ監督の代表作として我が国でも高い人気を誇る本作が、4Kの美しい映像で甦る。カンヌ国際映画祭の女優賞、国際映画批評家連盟賞、全米批評家協会賞の外国語映画賞など多くの賞を受賞。

11/21 ㊤ 12:20
11/23 ㊤(祝) 10:30
11/28 ㊤ 15:30
★上映前に3分程度の解説動画付

ケシロフスキ短編3作品プログラム + 『トーキング・ヘッズ2021』

11/21 ㊤ 10:30 11/23 ㊤(祝) 13:00 11/27 ㊤ 15:00
※4作品同時上映 ★ケシロフスキ3作品上映前に3分程度の解説動画付

1980年代以降、その名を世界に知らしめたケシロフスキ監督は、60年代から多くの短編ドキュメンタリーを製作していました。その知られざる傑作群の中から3作品と、ケシロフスキにオマージュを捧げた意欲作を紹介します。



© WFDIF

ある夜警の視点から Z punktu widzenia nocnego portiera

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1977年/ポーランド語/16分/モノクロ

ある監視員の日常を、彼自身へのインタビューと仕事ぶりを通してあぶり出す。官僚的な規則を盲信し、些細な罪も見逃さない彼の姿をカメラは客観的に捉え続ける。79年のクラクフ映画祭でグランプリを受賞。



© WFDIF

異なる年齢の7人の女性 Siedem kobiet w różnym wieku

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1978年/ポーランド語/16分/モノクロ

7人のパレエに関わる女性たちを、曜日ごと7つのシークエンスに区切って見つめる。レッスンに励むあどけない少女からベテランダンサー、さらにはパレエ学校の講師まで、様々な年齢の女性たちの肉体と表情。



© WFDIF

トーキング・ヘッズ Gadające głowy

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1980年/ポーランド語/15分/モノクロ

「あなたは誰ですか?」「人生で何をしたいですか?」といった4つの質問を0歳から100歳までの人々に投げかける。激動の時代を迎えつつあったポーランドの人々が何を考え、何を頼りに生きているのかを如実に伝える貴重な記録。



Instytut Adama Mickiewicza

トーキング・ヘッズ2021 Gadające głowy 2021

監督:ヤン・P・マトウジンスキ
2021年/ポーランド語他/23分/カラー

ケシロフスキによる約40年前の質問を再び問うオマージュ作品。出演はイレヌス・ジャコブ、ジュリー・デルピーなどケシロフスキに縁のある人物を中心に、アトム・エゴヤン、アグニェシュカ・ホランドといった映画監督まで多岐にわたる。

アンコール上映

アンジェイ・ヤキモフスキ Andrzej Jakimowski



1963年、ワルシャワ生まれ。ポーランド映画賞作品賞などに輝いた『目を細めて』(03)以降、『トリック』(07)でヴェネツィア国際映画祭エウロパ・シネマ・レーベル賞、東京国際映画祭最優秀男優賞、『イマジン』でワルシャワ国際映画祭監督賞を受賞するなど、現在のポーランド映画界を代表する監督のひとり。

イマジン Imagine

監督:アンジェイ・ヤキモフスキ
2012年/英語・仏語・ポルトガル語・独語
105分/カラー

美しいリスボンの街を舞台に描かれる、視覚障害者のための診療所で働く盲目の教師と引きこもりがちな美しい教え子の恋愛劇。研ぎすまされた音響設計と自然光を駆使した魅惑の映像美が静かな感動を呼ぶ。主演は英国人俳優のエドワード・ホッグと『ラッシュ/プライドと友情』(13)のアレクサンドラ・マリア・ララ。

11/21 ㊤ 16:00 11/28 ㊤ 13:00



© ZAIR

スタニスワフ・レム 生誕100年記念上映



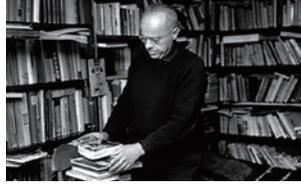
Stanisław Lem 1963 © Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

スタニスワフ・レム Stanisław Lem

1921年、ポーランド領ルヴフ(現ウクライナ・リヴィウ)生まれ。父はユダヤ系の医師で、ナチス占領下では素性を隠し自動車工などをして生計を立てる。戦後医学を学び、在学中から雑誌に小説や詩を掲載。50年代から60年代にかけて地球外生命体とのコンタクトをテーマにした三部作『エデン』『ソラリス』『インヴィンシブル』などを発表、その後も精力的に活動し20世紀を代表するSF作家として君臨。2006年死去。

ソラリスの著者 Autor Solaris

監督:ボリス・ランコシュ
2016年/ポーランド語/56分/カラー



© Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

SF小説の金字塔「ソラリス」の著者スタニスワフ・レムの謎に挑むドキュメンタリー。ユダヤ知識人の家に生まれながらホロコーストを生き延び、SFの世界に新たな地平を切り開いたレムの生涯と作品に隠された秘密を探る。レムの遺した8ミリ映像、フィリップ・K・ディックの未公開書簡、レム自身の朗読肉声も披露。

11/21 ㊤ 14:30 11/27 ㊤ 16:50
★レムについての配布資料有 ★上映前に3分程度の動画解説付

アンジェイ・ワイダ 没後5年

世界的な巨匠アンジェイ・ワイダ監督がこの世を去って5年。今なお次世代の映画監督たちに多大な影響を与え続ける彼のドキュメンタリーと代表作。

アンジェイ・ワイダ Andrzej Wajda

1926年、ポーランドのスヴァウキ生まれ。第二次大戦中に対独レジスタンスに参加、戦後クラクフ美術大学を経てウッチ映画大学で学ぶ。55年に『世代』で長編監督デビュー。カンヌ国際映画祭審査員特別賞を受賞した『地下水道』(57)をはじめ、『灰とダイヤモンド』(58)、『大理石の男』(77)、『鉄の男』(81)など時代を象徴する力作を発表、戦後ポーランド映画界の第一人者として活躍。



© Maciej Komorowski

アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション

Andrzej Wajda: Moje inspiracje

監督:マレク・プロツキ、アンジェイ・ワイダ
2016年/ポーランド語・英語/62分/カラー



Courtesy of EC1 Films, Fundacja Tumult.

アンジェイ・ワイダ監督自身によるワイダ映画の神髄。彼にとって映画とは何か、そしてポーランドの絵画がシーン作りによどのような影響を与えたのか、その映画人生と演出の秘密を明かす。また若き日に『灰とダイヤモンド』を観て衝撃を受けたマーティン・スコセッシ監督がワイダ映画への思いを熱く語る。

11/20 ㊤ 10:30 11/23 ㊤(祝) 15:00 11/27 ㊤ 13:00
★11/20(土)上映前にウルシュラ・オスミツカさん(ポーランド広報文化センター所長)の挨拶があります。
★11/20、11/23、11/27 全ての上映後に久山宏一さん(ポーランド広報文化センター)の解説トーク付

ポーリッシュ・シネマ・ナウ!

私は決して泣かない Jak najdalej stąd

監督:ピョトル・ドマレフスキ
2020年/ポーランド語・英語/100分/カラー



© Piotr Domalewski / Akson Studio

母と障害者の兄と暮らしているオラは自由奔放な17歳の少女。ある日アイルランドに出稼ぎ中の父の訃報が届き、オラが遺体を引き取りに行くはめに。数々のアクシデントを乗り越え、彼女が最後に手にしたのは…。ひたすら前を向くタフなヒロイン像が眩しい青春映画。昨年の東京国際映画祭で上映され好評を博した。

11/20 ㊤ 15:30 11/28 ㊤ 10:30

ピョトル・ドマレフスキ Piotr Domalewski

1983年、ポーランドのウォムジャ生まれ。クラクフの演劇学校で演技を学んだ後、監督・脚本家としても活動を始め、いくつかの短編映画が高く評価される。17年、初の長編劇映画『クリスマスの夜に』でポーランド映画祭の作品賞、主演男優賞など多数の賞を受賞し、一躍注目を浴びる。最新作『ヒヤシンスの血』(2021)がNetflixにて配信中。



FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2021